

鮎

TAKUSUI

11

2005年 November

No.589



REPORT 第57回全国漁港漁場大会を兵庫県で開催

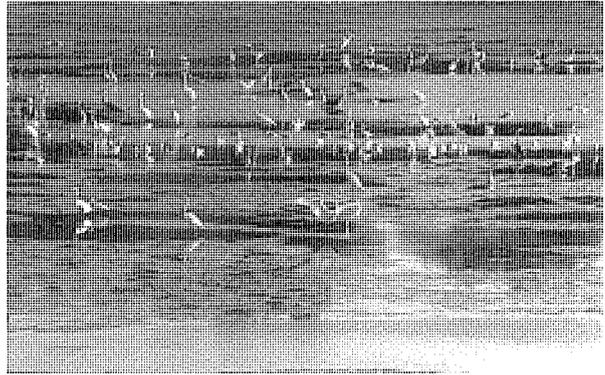
ウチの漁協! JF相生

CONTENTS

- 2 旬に想う
群れて騒いで
表紙の言葉
- 3 NEWS
南米兵庫交流団
- 4 REPORT
第57回全国漁港漁場大会を兵庫県で開催
- 6 兵庫JCC通信
- 7 行事予定
TOPICS
大輪田塾開講
- 8 ウチの漁協
JF相生



写真と文 遊方子



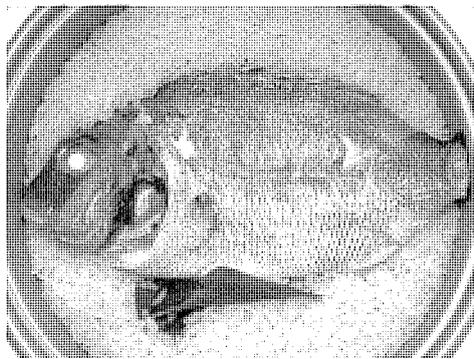
群れて騒いで

◆ 水を抜いた溜め池の中央。僅かな水溜りへ小魚が寄せられ、絶好の餌場になって鳥たちが集まった。その数の多さが目を引き、まるで人間社会の縮図のように思えた。人が集まり《会》が生まれ、それが恒常化して《社》になる。二つの熟字で《会社と社会》が出来るが、人間集団を表す熟語として共通する。大勢が集えば摩擦を避けるためルールが必要になり、規則や規律が作られる。大きくは憲法で、その下に数々の法が施行され、雁字搦めに周囲を締めつけられる。法は片手落ちを見直して、絶えず改変が加えられる。公平・平等を考えると、必ず何処かに歪(いびつ)な部分が生じるものなのだ。

◆ 現代っ子に共通する性格形成を専門医が分析していた。現代っ子同士の人間関係は、表面上は仲が良さそうに見えるが、内面は自己中心的で規範意識が薄いという。精神的にも未熟で忍耐力は皆無に近い状態だという。また、自尊心の高い割には自己評価が低く、他人への依存度が強い傾向にある。それは人間関係が希薄であるため、より濃密な関係への憧れが非常に強くと分析しており、専門医の鋭い診断だと思った。このような性格は、他人の甘言に簡単に釣られ、下心ある者に騙される。事件に巻き込まれる。麻薬中毒者の若年令化が指摘されるが、そんな性格形成に起因しているようにも思われる。

◆ 最近の子供らは《群れ遊び》が出来ないのじゃないか。昭和

表紙の言葉



～鯛めし～

(写真提供: JF明石浦 山崎清張氏)

魚が美味しい
 齢を重ねるうちに、肉よりも魚を好むようになった
 酒が美味しい
 たいして飲めはしないけど、醸造用アルコール
 などという妙な混ぜ物など一切ない純米酒を
 いっぱしの通を気取って飲んでいる
 朝夕めっきり冷え込むようになった今日この頃
 俗世間の騒音などしばし忘れ
 美味しい魚で一杯やりますかあ

JF兵庫信漁連 R

和三十年代、車も少なく道路は子供の遊び場だった。原っぱや空き地も多かった。遊びの道具はそれほど無かったため、仲間と一緒に群れ遊ぶことが《遊び》の全てであった。群れ遊びの良い点は、時間や空間を共有することにあり、陣取りや陣は相手チームとの戦いだから、仲間意識との連帯感を生む。それは情操や感情の安定に繋がり、社会的な能力や自立心の発達にも役立つ。最高の遊びだ。それは将来における人間形成にも、大きく影響したように思う。今、空き地や原っぱが皆無となり、群れ遊びの出来ない不幸な事態になっている。子供の楽園だった道路も空き地も、自動車に占拠されて仕舞ったのである。

◆ 海辺近い作業小屋が燃え上がった。直ぐに消し止め大事に至らなかったが、少年のシンナー遊びが原因だった。数人の常習者が検挙された。こうなる以前に、なぜ制止できなかったのか。分別ある大人が、少年らの周囲にいなかったのを残念に思う。この数年、年少者の犯罪が随分と増えた。小学生死傷事件・同級生殺し・親殺し・バスの乗っ取りなど、まるで伝染病のように拡大するばかりで低年齢化も憂慮される。善悪の見極めつかぬ若者が、悪へ傾斜していくのは周囲にいる善の大人たちの責任だろう。若者は天下の至宝、次代を託す後継者である。厳しい眼で見守り、人の道はずさぬよう指導するのが我らの責務なのだが、現実には途方も無く誤った進み方をしていく感じがする。

南米兵庫交流団

2005.8.3～15

① ブラジルの概要を紹介します。

南米大陸の約半分を占めるブラジル。日本の23倍、世界第5位というその広大な国土は東西南北に広がり、都市と都市の間には、今なお無人地帯が果てしなく続いています。人種構成は、白人系55%、混血38%、黒人系6%、黄色人系1%といわれているが、正確にはわからない。古くから、先住民と白人、黒人が混血を重ねてきた上、ポルトガル人、イタリア人、ドイツ人、日本人、アラブ人など数多くの移民を受け入れてきたため、今では人種が入り乱れ、人種構成を調べることもすらすら無意味のようです。

② 参加行事

井戸兵庫県知事は、8月3日から13日間にわたり、ブラジルのほか南米の国々を訪問されました。兵庫県国際交流協会からは、井戸知事を代表とする県民各界各層100名からなる兵庫県友好団体を組織し、兵庫県とブラジルパナマ州との友好提携35周年記念事業や二万国の日系人兵庫県人会と交流するなど、南米との交流を深めました。

水産業界からは、丸一会長をはじめ5名が参加し、アルゼンチン、ブラジルの二万国を訪問しました。アルゼンチン兵庫県人会の方々と懇談会につき、ブラジルのサンパウロで開催された「ブラジル兵庫県人会創立45周年記念式典・祝賀会」やパナマ州クリチバ市で開催された「兵庫県パナナ州友好提携35周年記念祝賀会」に出席しました。

また、ブラジル兵庫県人会創立45周年記念式典・祝賀会には県訪問団を含め350名が参加、知事より祝意並びに震災復興支援への謝意が表明されたほか、ブラジル移住100周年記念事業への取組みが紹介されました。

式典終了後、祝賀会が行われましたが、アトラクションでは、同県人会員による日本の歌や剣舞などの出し物に加え、県民交流団参加者による歌や日本昔話の朗読、農業高校生の踊り（マッケンサン）が披露され、交流が盛り上がる中、ブラジルサンパウロ市となりしました。

この式典が開催されたサンパウロは、南米最大の都市で林立する高層ビル。人口約1500万人でブラジル全人口の8%が

集中しています。国民総生産の50%を生み、3000店舗の銀行など、まさにブラジル経済の中心です。

大通りを少し中へ入ると、水産物、野菜、果物など食料品を売る露店が多く並ぶ市場があります。魚類は「さわら」、「えび」、「たこ」など種類は豊富に並んでおり、多くの人が買い物を楽しんでいる光景が見られました。

日本食料店で魚料理を食しました。エビ類はおいしくいただきましたが、やはり、日本の味付けと違い脂濃いものが多かったように思います。

日本人街では「○○商会」「○○屋」といった感じの看板が目につき、目抜き通りに赤い鳥居が立っていたりして驚かされます。

兵庫県パナナ州友好提携35周年記念祝賀会では、35年間の両県州の交流の成果並びに今後の交流促進に関する合意の趣旨を盛り込んだ共同声明について訪問団員の見守るなか、井戸知事が調印されました。

夕刻には、パナナ州政府主催による記念歓迎レセプションが開催され、日本酒が振る舞われ日本の歌も披露されるなど打ち解けた雰囲気の中で祝賀会が開催されました。ブラジルと兵庫県のつながりは、1908年にブラジルへの農業移民を乗せた最初の移民船「笠戸丸」が神戸港を出港して以来のことであり、1970年にはパナナ州との間で兵庫県パナナ州友好協力協定が締結され、兵庫県とブラジルとの交流に大きな成果をあげているようです。

この祝賀会は、ブラジルで一番きれいな町クリチバで開催されました。コヒーの産地として有名なパナナ州の州都クリチバは、人口およそ148万人。パナナ州東部高原、標高約900mのところまに位置し、ほとんどの住人はヨーロッパ系で、日系人もかなりいますが、黒人系が少ないようです。

③ イグアスの滝

イグアスの滝は、パナナ州南西部に位置し、アルゼンチンとの国境にまたがる大瀑布で、約4km、落差80mの間に大小約300の滝が段をなして連なり、まさに圧巻。アルゼンチン側から



は、イグアスの滝最大の「悪魔のどぶえ」と呼ばれる滝をすぐ上から見下ろすことが出来、一方、ブラジル側からは、中段にせり出した展望台から迫力のある眺めが広がります。叩きつける水は轟音を響かせ、水しぶきが空高く舞い上がり、虹がかつており歩くだけでびしょ濡れになります。

この滝は、1億2000万年前に既に存在していたと考えられており、古くから聖地として崇められてきたようです。

④ リオネ・ジャネイロ

リオネ・ジャネイロの地名の由来は、1502年1月グアナバラ湾を発見したポルトガルの探検隊がこの湾を川と勘違いし、ポルトガル語で川をリオ、1月をジャネイロということから、リオネ・ジャネイロとなり、1月の川という意味のようです。

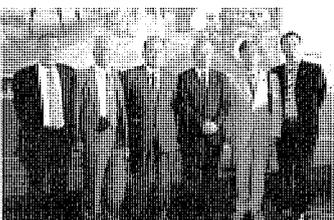
現在、人口700万人を超えるリオネ・ジャネイロは、サンパウロに次ぐブラジル第2の都市で、世界3大美港として有名であり、高さ30m長さ28mのキリスト像の立つコルコボアの丘からの景観はすばらしく、世界一風光明媚な景観といわれるとおりでした。

⑤ イタイブー発電所

ピテオによるダムの紹介がありました。ダムの高さは最大で196m、総延長7760m、貯水池面積が1350km²と琵琶湖の約2倍あり、1機あたり出力70万kw/hの発電機20基が稼働し、生産した電力をブラジル、パラグアイ両国で折半しています。ブラジルにおける消費電力の25%、パラグアイにおける消費電力の89%をカバーしているとのことでした。

終わりに

やはり、日本の裏側ブラジルは遠く、片道およそ23時間におよぶフライトを堪能するとともに、私たちが参加した南米兵庫交流団は26人で構成されており、平均年齢50歳後半でしたがスケジュールは強行軍であり、体調維持がむずかしく腹痛と時差に悩まされました。旅が進むにつれ丸一会長を中心に参加者のチームワークが保たれ旅がもたらす連帯感を感じることが出来ました。13日間におよぶ長い旅でしたが、参加者の協力により無事に旅行を終えることが出来ました。ありがとうございました。

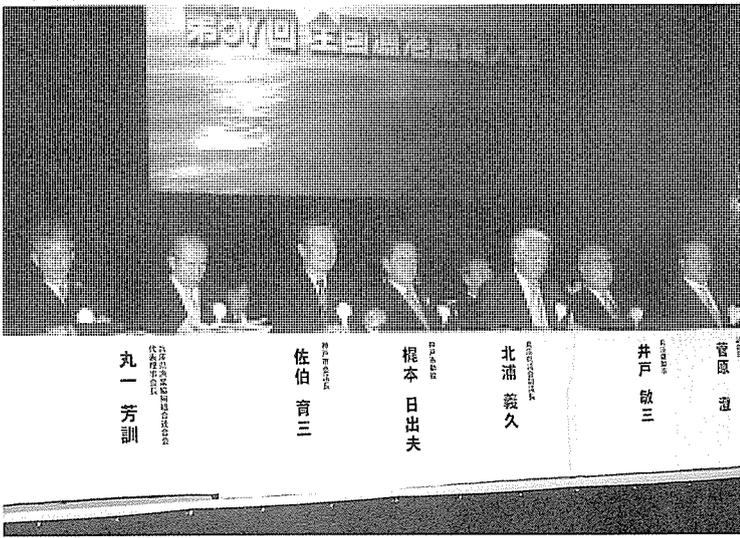


REPORT

全国から2,400人が参加

第37回全国漁港漁場大会を兵庫県で開催

第57回全国漁港漁場大会(主催:社団法人全国漁港漁場協会、後援:兵庫県、神戸市、兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁港協会、兵庫県沿岸漁業振興協議会、協賛:全国漁港海岸防災協会)が、去る10月12日(水)神戸市の「ワールド記念ホール」において、宮腰光寛農林水産副大臣、竹山裕漁港漁



場漁村整備促進議員連盟会長、福島啓史郎同連盟幹事ほか多数の来賓並びに全国から2,400人の出席を得て盛大に開催されました。

今大会では、夢のある次期漁港漁場整備長期計画、水産社会資本整備重点計画(海岸事業)並びに地震・津波などの災害に強い漁業地域づくりの推進等の対策を総合的に進める必要があることを確認し、関係施策の積極的な展開が図られるよう、政府、国会等に対し、強く働きかけることを決議しました。

大会は、9時14分にウエルカムパフォーマンスとして、兵庫県警察音楽隊による演奏が行われ、次に兵庫県漁業紹介のビデオ放映がされました。午前10時に、司会者・古原ゆかりさんにより進行され、まず藤原久嗣本県漁港協会理事(香美町長)の開会の挨拶で幕を開け、国歌斉唱に続き、坂井淳(社)全国漁港漁場協会会長が主催者挨拶を行いました。

続いて、来賓の祝辞に移り、始めに宮腰光寛農林水産副大臣が挨拶され、続いて竹山裕漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長等の国会議員の祝辞に続き、中須勇雄(社)大日本水産会会長、そして植

村正治(社)全国豊かな海づくり推進協会会長が、それぞれ祝辞を述べられました。

その後、他の来賓紹介が行われた後、地元開催県を代表して、井戸敏三知事が歓迎の挨拶を述べられました。

議事に入り、正副議長の選任は恒例により、議長に地元開催県の芝原英三県漁港協会会長(家島町長)、副議長に佐藤一誠秋田県漁港漁場協会会長を、会場の盛大な賛同の拍手により選任しました。

議長の名により、森武美県漁協女性部連合会会長が、声高らかに「大会アピール」を朗読され、会場の盛大な拍手により賛同を得ました。

次に議案の審議に入り、「漁港漁場整備長期計画並びに社会資本整備重点計画(海岸事業)の着実な推進と、次期漁港漁場整備長期計画の策定に関する件」について、佐々木新一郎京都府漁港漁場協会会長(府漁連会長)から提案説明を行い、続いて菅原澄北海道漁港漁場協会会長(釧路町長)から意見発表が行われ、満場一致で採択されました。

更に議長の名により、中尾雄作鹿児島県笠沙町漁協組合長が、決議文案を朗読し、盛大な拍手により採択された後、決議推進実行方法として、決議

平成17年
10月12日(水)



文を基に全国漁港漁場協会会長並びに各都道府県漁港漁場協会会長の連名による要望書を作成し、政府、国会、政党、その他、各方面に要請して、決議事項の実現に努めることとしました。

実行方法については、決議推進実行委員会を組織し、これに各都道府県漁港漁場協会会長、副会長及び主要の役員が参加して、決議推進の任にあたることとして、会場の賛同を得、全議事を滞りなく終了致しました。

次に「感謝の集い」に移り、阪神・淡路大震災から10年という節目の年を迎え、本県漁業者が、震災時に全国の漁業関係者から頂きました励ましのこ

とばや、温かい支援に対して、また被災した漁港、漁場関係者に対し、本県漁業者を代表して、丸一芳訓県漁業協同組合連合会代表理事会長から、力強い「感謝のことば」が述べられ、支援代表者に感謝状並びに記念品が贈呈されまして、式典の1部を終了致しました。

第2部は、11時45分から、記念講演「海の災害を考える」～津波来襲時の漁業被害を減らす～と題して、京都大学防災研究所長、人と防災未来センター長の河田恵昭さんから、津波とは一体どのような恐怖なのか、湾や内海における津波挙動の特徴、漁業被害の出方とその軽減策について、との内容で東海・東南海・南海地震が憂慮される中、貴重な講演を聴き、成功裡のうちに全大会を終了致しました。

また、大会の一環としての、地元漁港現地視察は、神戸市の「垂水漁港」と、淡路市の「育波漁港」の2カ所で行い、大会に訪れた参加者が、両漁港を訪れ(各ター、000人を超える)、漁港整備の状況等を見学し、地元の人達の心温まる歓迎を受け、お土産を手に帰路に着きました。

なお、末筆になりましたが、漁港視察の受入れをして頂きました、神戸市漁協並びに育波浦漁協の組合長様始め、役員一同、組合員、そして女性部の皆様方には、大変お世話になりました。深甚なる感謝を申し上げます。

また、漁港管理者であります神戸市、兵庫県、そして淡路市の関係者の皆様にも、事前の準備企



画・受入当日・後片づけ等々に、無類のご尽力を頂きます。誠にありがとうございました。

そして、この大会全般にわたりまして、特に県漁課の皆様には、当初の企画から運営、進行等統括的に執行して頂き、正に獅子奮迅の活躍を賜りました。そして県漁連、各海区の団体並びに県下各漁協の皆様には、400余人の動員をして頂きありがとうございました。

なお、大会当日のスタッフ動員に快く応じて頂きました県始め、水産系統団体の職員の皆様方に、衷心より厚く御礼申し上げます。

地域に根ざした仲間づくり 「土を楽しむ会」開講!



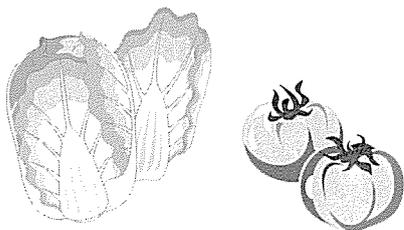
飾磨支店で開会の挨拶をする
JA兵庫西女性会・中村和子会長

JA兵庫西は、9月26日・27日、JA女性会姫路ゆめ地区による「土を楽しむ会」の開講式を船津・飾磨・旭陽支店の3会場で開催し、計58名の参加があった。

この会は同JAの食農事業の一環として、女性会会員だけでなく、広く地域住民からも参加を募り、「食」と「農」の楽しさを実感しながら、女性会員や地域住民、JA職員らの相互交流を図ることを目的に開講された。

参加者は、月に1回のペースで約2時間の勉強会に参加し、野菜や花などの栽培を同JAのアドバイスのもと行うが、勉強会の日程や栽培品目は、その都度、参加者の希望に応じて決定される。開講式で同JA山本昭夫営農販売課長は、「和気あいあいとした楽しい勉強会にしたいが、地域の直売所での販売をめざすなど、夢は大きく持って参加して欲しい」と語った。

開講式では、同JA発行の「イラスト新鮮野菜づくり」を使っての土づくりの講義も行われ、参加者はテキストを片手に熱心に聞き入っていた。



<http://www.zenchu-ja.org/>

2005年度 兵庫県生協大会を開催

10月14日(金)、兵庫県民会館9階ホールにおいて2005年度兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役職員など約370名が揃いました。当日は、第一部 記念式典、第二部では「笑いでコミュニケーション～自分らしく輝いて」をテーマに桂あやめさん(落語家)の記念講演を行ないました。

まず、第一部では、主催者を代表して浅田克己・兵庫県生協連会長理事が挨拶。続いて、兵庫県副知事・藤本和弘様、神戸市長・矢田立郎様(代読神戸市生活文化観光局生活文化部長・大森伸一様)より、それぞれ生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。その後、生協功労者表彰に移り、永年生協の発展に寄与した2名の役員に「兵庫県知事感謝」が、また生協業務に精励した25名の役職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られました。



また、今年も昨年と同様、902号室で地域生協・大学生協・医療生協・共済生協など分野ごとに生協紹介コーナーを設置し、パン・コーヒーの販売・試食や、健康チェック、食育・くらしのたすけあい・環境・悪質商法の被害防止・共済などのパネル展示など、生協活動への理解促進をおこないました。毎年大好評の医療生協による健康チェックコーナーでは、検査結果による健康アドバイスにも熱心に耳を傾けている参加者の姿がうかがえ、パンコーナー、珈琲試飲コーナーとともに、あふれんばかりの参加者でいっぱいになりました。第二部の記念講演では「笑いでコミュニケーション～自分らしく輝いて」をテーマに桂あやめさん(落語家)にご講演いただき、会場の参加者からも、笑いと笑顔があふれる講演となりました。

<http://www.co-op.or.jp/jccu/>



行事予定

<変更になる場合があります>

JF兵庫漁連

Table with 2 columns: Date and Event details for JF兵庫漁連.

JF兵庫信漁連

Table with 2 columns: Date and Event details for JF兵庫信漁連.

JF共水連兵庫

Table with 2 columns: Date and Event details for JF共水連兵庫.

基金協会

Table with 2 columns: Date and Event details for 基金協会.

内海漁保

Table with 2 columns: Date and Event details for 内海漁保.

但馬漁保

Table with 2 columns: Date and Event details for 但馬漁保.

ひょうご豊かな海づくり協会

Table with 2 columns: Date and Event details for ひょうご豊かな海づくり協会.

兵庫県

Table with 2 columns: Date and Event details for 兵庫県.

その他

Table with 2 columns: Date and Event details for その他.



大輪田塾開講

JF兵庫漁連は、めまぐるしく変化する社会構造と経済的な価値基準の変化に対応し、将来を見据え、JF組織を基礎から支えていけるような人材を育成するため「大輪田塾」を開講いたしました。

開講式では丸一塾長から「優秀な人材を育てるため塾を開設する。兵庫の水産、明日の日本の水産業の発展に向け役割を果たしてほしい」と訓辞がありました。

また、兵庫県農林水産部農林水産局小池局長並びに(財)ひょうご豊かな海づくり協会井上理事長より「第一期生として選ばれたことを誇りに思い取り組んでもらいたい」旨、お祝いと期待の言葉が述べられ、厳粛に開講式が執り行われました。

午後からは早速、「アジアの活魚漁」海洋資源の利用と流通をめぐってと題して、関西学院大学の田和教授(大輪田塾運営委員)より講話が行われ、活発な意見が出され討議が行われました。

塾は基礎・専門の単位を2年間(最長3年間在籍可能)で修得するシステムになっており、講演等の受講とレポートの提出、集団討議による解決の方法、論理構築等の研修、現場での実践による総合的な研修を、大学・専門学校等の先生、兵庫県・漁業関係団体等の役員が講師となって実施していきます。

秋武事務局長からのエール

県関係団体の強力なバックアップは、兵庫の漁業を守り支え、広い視野で漁業者の幸せを実現してもらいたいとの絶大な期待を抱いているからであります。

今後、塾生の皆さんは、漁業関係のみならず、政治・経済・社会の様々な事を学び、大いに切磋琢磨し、将来の水産業の舵取りを行う「船頭」として礎を築いていただきたいと思っております。

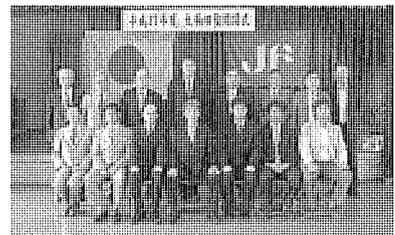
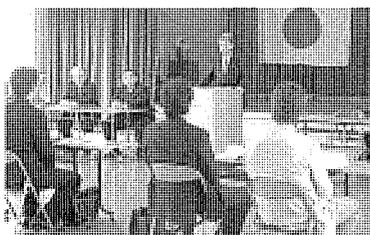
第一期生の皆さんは既に第一線でご活躍されており、模範的な方ばかりですが、実践の専門家から幅広く今後のご活躍を大いに期待するとともに、これからの修学と家業の両立を願い、心からエールを送りたいと思います。

大輪田塾 塾生名簿

～大輪田塾第一期塾生～

Table with 2 columns: Name and Affiliation of the first cohort of students.

※大輪田塾主催講座については、一般の漁業者・JF職員も聴講可能です。詳しい講座内容・開催日・申込方法等は漁連ホームページの会員・職員連絡ページをご覧ください。



編集後記



「播州の秋祭り」(屋台の練り合わせ)(ぶつけて壊すけんか神輿の興奮)(夜ふけて電飾屋台の幻想的な競演)、兵庫県南西部の播州地域の一帯では祭り一色で盛り上がり、豪華な屋台が披露され人々は熱中し酔いしれます。お祭りに行くと、歴史と伝統をひしひしと身に感じ、何かうきうきした楽しい気分になるのは、筆者だけでしょうか。かに、エビ、お寿司...等々のごちそうとお酒も特に楽しみの一つです。

いよいよ正念場!

生粋の相生ガキ誕生プロジェクト



No.31

JF相生



ピンと張りつめたような空気が漂うようになってきた11月。そろそろ“海のミルク”と呼ばれる栄養たっぷりのカキがおいしい

くなる季節ですね。カキの産地としては広島県などが有名ですが、わが兵庫県だって負けてはいません!では、兵庫県の有名なカキどころはというと、やはりここ相生漁業協同組合を挙げる方が多いのではないのでしょうか?



相生湾の西側に位置する壺根漁港 クレーンの付いたカキ養殖用の漁船

相生漁業協同組合でカキ養殖が本格的に始まったのは、昭和53年ごろ。それまでは漁船漁業が主体でしたが、新しい漁業を模索して試行錯誤を繰り返した結果、たどりついたのがカキ養殖でした。2・3人というわずかな人数からスタートしたカキ養殖は、今やほとんどの組合員が携わる、相生を代表する漁業となりました。



相生湾の東側に位置する鱒浜漁港

相生の海は揖保川と千種川の間位置するため、上流の森林の腐葉土を通ってきた栄養豊富な河川水により、カキの餌となるプランクトンが増殖します。この豊かな相生湾で育つカキは、身が大きく、栄養たっぷり。また、料理をしてもほとんど縮まないと消費者の皆さんから非常に好評です。

このように良質のカキを生産している相生漁協ですが、5~6年前から新たな取り組みとして、種ガキの採苗にチャレンジを始めました。これまでのカキ養殖は、広島、宮城などから種ガキを買い付けて行っていました。しかし、産地の種のでき具合によって価格が大きく変動すること、また、種の買い付けにかなりのコストがかかることから、生まれも育ちも相生湾という“生粋の相生ガキ”を作る取り組みが始



<漁協メモ>

相生漁業協同組合
代表理事組合長 坂田 強志
組合設立日：昭和24年7月20日
組合員数：正組合員44名、准組合員13名/計57名
漁獲数量：カキ：2,532t(ムキ身700t)、魚類：124t

まったというわけです。カキの産卵時期は7月から8月頃。相生湾に自生するカキが産んだ卵は、潮の流れに漂いながら付着できる場所を探します。産卵後2~3週間後にホタテの殻を投入し、約0.3mmのカキの幼生を付着させる作業が「採苗」です。採苗の難しさは、何といっても投入する時期と場所の見極めです。というのも、産卵時期にホタテの殻を海に投入すれば、勝手に幼生が付着してくれるわけではなく、幼生が付着しやすい時期と漂っている場所を常に調査し、適切なタイミングを見計らって投入しなければ、幼生がうまく付着しないからです。付着のチャンスはほんの1日か2日。そのため、殻の投入日が近づいてくると、相生漁協にはピリピリとした緊張感が漂います。それほど採苗は、デリケートで難しい作業なのです。

幼生が付着すると、今度はこのままの状態を次の年の4月まで保つ「抑制」と呼ばれる段階に入ります。幼生が付着したホタテの殻を抑制棚につるし、潮が満ちた時は海水に浸けることでエサを与え、潮が引くと太陽にさらすということを繰り返します。この抑制によって成長を抑えると同時に、カキを鍛えて抵抗力をつけることができます。こうしてたくましくなったカキは、4月の終わりから5月にかけてようやくいかにへと移され、成長とともに内湾から沖へと場所を変えながら、日に日に成熟していきます。



抑制棚

水産試験場の指導期間である5年が過ぎ、いよいよ来年から組合員のみによる種ガキの採苗がスタートします。手探り状態からのスタートでしたが、海中の様々な生物の中からカキの幼生を見極め、個体数を予測する職人技も、だいが板についてきました。最終的には相生産の種ガキを3割程度まで増やしたいという目標のもと、種ガキ採苗プロジェクトは順調に進行中です。さらに、来年の1月には相生市の主催により、相生の美味しいカキを存分に堪能できる、一大イベントも予定されているそうです。もしかしたら、そのイベントの中で“生粋の相生ガキ”に出会えるのかもしれないね。



招 TAKUSUI 11 November

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会 (財)兵庫県水産振興基金

〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1

TEL 078-652-3444 FAX 078-671-6685 URL <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>